

2014年度

環境活動レポート

2014年度版(対象期間:平成26年9月~平成27年8月)



今回発行: 2015年 11月 9日

次回発行: 2016年 10月(発行予定)

株式会社 商報舎 坊主滝事業所

目次

- 1 環境方針
- 2 組織の概要
- 3 対象範囲
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画
- 6 環境目標の実績
- 7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容
- 8 環境関連法規への違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体の評価と見直しの結果

株式会社 商報舎

環境方針

<基本理念>

株式会社 商報舎 坊主滝最終処分場は、企業活動において、地球環境保全が最重要課題であることを認識し、環境に優しい社会に貢献します。

<行動指針>

- 1, 環境関連の関係法令及び公害防止協定等を尊重し環境保全に努めます。
- 2, 受託する産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることで、リサイクルの向上に結びつけていきます。
- 3, 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の抑制に努めます。
- 4, 環境目標を定め、継続的に改善活動を行います。
- 5, 関係官庁・団体及び地域社会とのコミュニケーションを図り、共生を推進します。
- 6, 社員及び常駐の関係者に環境方針・環境目標を周知させるとともに、公開します。
- 7, 環境方針の定期的な見直しを行います。

制定 平成23年12月 1日
改訂 平成24年11月 1日

株式会社 商報舎

代表取締役 佐藤真介

2 組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

株式会社 商報舎 代表取締役 佐藤 真介

(2)事業活動の内容

産業廃棄物の管理型最終処分場の運営

(3)所在地と連絡先(担当者)

事務所・処分場 福島県二本松市坊主滝7番地1
連絡先(TEL・FAX)0243-23-5133
環境管理責任者 安齋 好則
連絡担当者 鈴木 秀樹

(4)事業の規模

創業 昭和16年11月 資本金 1,000万円
平成19年 3月 第3処分場竣工
売上高と従業員数

規模	単位	年	2010年度 10/9~11/8	2011年度 11/9~12/8	2012年度 12/9~13/8	2013年度 13/9~14/8	2014年度 14/9~15/8
1、受託産業廃棄物処理量	t		7,864	20,786	40,338	24,249	31,814
2、売上高	百万円		111	320	700	390	480
3、従業員数	人		8	8	8	8	9
4、総処理水量	m ³		5,261	10,344	12,193	19,073	14,945
5、降雨量/年	mm		1,255	1,266	1,159	1,219	1,289

(5)許可の内容

許可番号	第00730018753号
許可年月日	平成26年8月6日
許可の有効期限	平成31年5月22日
事業計画の区分	管理型最終処分場
廃棄物の種類	汚泥、金属くず、銹さい、がれき類 (これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上4種類。

(6)施設などの状況

1、処理施設の種類の 管理型最終処分場
2、処理する産廃の種類 (5) 許可の内容に記載
3、処理能力 埋立地面積 22,356m²
埋立容量 234,400m³
4、処理方式 サンドイッチ工法
5、処理工程図 末尾「処理工程概略図」に示す

3 対象範囲

(1) 認証の対象範囲

(株) 商報舎 坊主滝事業所

(2) 認証の対象活動

産業廃棄物最終処分業

(3) 全組織・全活動について

事業所は全国に6ヶ所あるが、独立して事業を実施している事業所は坊主滝事業所だけである。他の事業所は、依頼先会社の製造ラインの一部を請け負っている事業内容であり、依頼先会社の環境経営マネジメントシステム(ISO14001)の中に組み込まれ環境経営を実施している。従って、今後、他の事業所において、エコアクション21の認証を取得するスケジュールはない。尚、本社は、賃貸ビルに入っていて管理費等も含まれている。社員は、2名で、半日しか滞在して作業しないことから、環境負荷も低いので本社は含めないこととする。なお、省エネに対しての活動は、実施してもらうようにします。

(4) 対象取組期間

環境活動レポートの対象取組期間

2014年9月1日～2015年8月31日

4 環境目標

環境方針と環境影響評価の結果に基づき、環境目標を次の通りに定める。

- 1、二酸化炭素排出量の削減
- 2、廃棄物排出量の削減
- 3、総排水量の削減
- 4、化学物質使用量の削減
- 5、グリーン購入の推進
- 6、社会貢献活動への積極的参加

以上の環境目標の達成期限は、平成27年8月とする。すなわち毎年見直しを行います。

(1) 主な環境負荷の実績

2014年9月1日～2015年8月31日の当社における主な環境負荷の実績は、下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量(kg-CO2)			廃棄物排出量(t)		総排水量(m ³)
電力(係数0.589)	灯油・LPG	ガソリン・軽油	一般廃棄物	産業廃棄物	水使用量
17,271	781	50,964	0.1	24	33

* 平成25年度、東北電力株のCO2排出係数0.589(kg-CO2/kWh)を使用。

(2) 環境目標(短期・中長期)の設定

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排出量の必須3項目並びに自主設定項目について、単年度目標並びに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2014年度(H26.9～H27.8)	2013～2017年度 (平成25年度～平成29年度 5年間)
二酸化炭素排出量	昨年度同期比1%削減	2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。
廃棄物排出量	昨年度同期比1%削減	2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。

	単年度目標	中長期目標
	2014年度(H26.9～H27.8)	2013～2017年度 (平成25年度～平成29年度 5年間) 2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。
総排水量(水使用量)	昨年度同期比1%削減	
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	グリーン購入を推進していく	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入路の整備等	搬入路の整備等

(3)平成26年度(取組対象期間)環境目標値

(2)の考え方に従って2012年度実績を基に、2014年度(H26.9～H27.8)の具体的目標値を下記のように算出しました。

	2012年度実績(基準年) (2012.9～2013.8)	2014年度目標 (2014.9～2015.8)
二酸化炭素排出量		
1)電力	19,438kg-CO2	前年度排出量の1%減 19,244kg-CO2
2)灯油・LPG	405kg-CO2	前年度排出量の1%減 401kg-CO2
3)ガソリン・軽油	42,094kg-CO2	前年度排出量の1%減 41,673kg-CO2
廃棄物排出量		
1)一般廃棄物	121kg	前年度排出量の1%減 120kg
2)産業廃棄物	3.63t	前年度排出量の1%減 3.59t
総排水量(水使用量)	21m ³	前年度排出量の1%減 21m ³
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	1、グリーンカレンダー 4、コピー用紙 2、油圧ショベル 3、太陽光発電	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入道路の整備	搬入道路の整備

※2014.9～2015.8 廃棄物処分量 31,814t

5 環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減

- ◆ 室内温度は、冷房時28℃、暖房時は、20℃の設定にする。
- ◆ 電気製品の買い替えの際は、省エネタイプの機器を選定する。
- ◆ 昼休みなど、不要な照明を消灯する。
- ◆ 席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ。
- ◆ 電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る。

② 灯油使用量の削減

- ◆ 室内温度は、暖房時20℃の設定とする。

③ ガソリン・軽油使用量の削減

- ◆ エコドライブの徹底。
- ◆ 車両入替時は、エコカーを優先して購入する。
- ◆ 無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る。

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物

- ◆ 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする。
- ◆ 外部からのゴミはなるべく持ち込まない。
- ◆ 両面コピーや縮小コピーの励行。

② 産業廃棄物

- ◆ マニフェストをもとに適正な処理を行う。
- ◆ 産業廃棄物の再資源化に取り組みリサイクル率の向上を図る。

- ③ 排水量(水使用量)の削減
- ◆ 洗車時や手洗い時など水をだしっぱなしにしない。
 - ◆ 手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底。
 - ◆ 水処理施設からの排水量の削減
- ④ 化学物質使用量
- ◆ 化学物質使用量の適正管理に努める。
- ⑤ グリーン購入の推進
- ◆ エコマーク製品などの環境配慮配慮製品を積極購入する。
- ⑥ 社会貢献活動の推進
- ◆ 地域の清掃活動等に積極的に参加する。
 - ◆ 搬入路などの道路整備、草刈り等の実施。
- ⑦ 浸出水の排水の水質管理
- ◆ 社内で、排水基準を設けて適正に管理する。

	県条例	二本松市条例	社内基準
PH	5.8～8.6	5.9～8.1	5.9～8.1
BOD	25	20	17
COD	25	20	17
SS	70	40	20
油分	5	5	3

6 環境目標の実績 (2014. 9～2015. 8)

対象取組期間における環境目標の達成状況は下記に示すとおりです。

(1) 二酸化炭素排出量

① 全体(目標:1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg-CO2	61,937	61,318	69,018	7,700	11	×

コメント 昨年度同期比、11%増となりました。

② 電力使用量(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg-CO2	19,438	19,244	17,271	-1,973	-11	◎

コメント 昨年度同期比、11%減となりました。

③ 灯油・LPG使用(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg-CO2	405	401	781	380	92	×

コメント 昨年度同期比、92%増となりました。

④ ガソリン・軽油使用(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg-CO2	42,094	41,673	50,964	9,291	21	×

コメント 昨年度同期比、21%増となりました。

※1…評価◎→達成できた ○→削減したが目標未達成 △→昨年度とほぼ同じ

×→昨年度より増加

(2) 廃棄物排出量

① 一般廃棄物(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg	121	120	106	-14	-12	◎

コメント 昨年度同期比、12%減となりました。

② 産業廃棄物(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
kg	3,630	3,594	24,610	21,016	577	×

コメント 昨年度同期比、577%増となりました。

(3) 総排水量・水使用量

① 水使用量(目標1%削減)

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
m ³	21	21	33	12	57	×

コメント 昨年度同期比、57%増となりました。

② 排水処理施設の処理水量

	2012年度実績	2014年度目標	2014年度実績	削減量	削減率 %	評価 ※1
m ³	12,193	12,071	14,945	2,874	22	×

コメント 昨年度同期比、22%増となりました。

(4) 化学物質使用量の削減

PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用している。但し、処理工程は決められており自らの判断で削減することは出来ませんが化学物質の適正に管理していることを定期的を確認します。

(5) グリーン購入

2014年度は、事務用品など多数購入しました。

(6) 社会貢献活動

搬入路の整備や冬期間の除雪を実施した。夏季には、搬入路の除草作業、道路の整備を実施した。

7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容

(1) 環境活動計画の取組状況の評価

○…十分に取組んだ △…ある程度取組んだ ×…取組み不十分(未実施) —…評価保留

取組項目	具体的動計画	評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	◆室内温度は、冷房時28℃、暖房時20℃の設定とする	△
		◆電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	—
		◆昼休み等、不要な照明を消灯する	○
		◆席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ	○
		◆電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る	○
	灯油使用量の削減	◆室内温度は、暖房時20℃の設定とする	△
	ガソリン・軽油使用量の削減	◆エコドライブの徹底	○
		◆車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する	○
		◆無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る	○
の廃棄物削減排出量	一般廃棄物	◆分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○
		◆外部からのゴミはなるべく持ち込まない	○
		◆両面コピーや縮小コピーの励行	○
	産業廃棄物	◆マニフェストをもとに適正な処理を行う	○
		◆受託産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることでリサイクルの向上に結びつける	○
排水量(水使用量)の削減	◆洗車時や手洗い時など、水を出しっぱなしにしない	○	
	◆手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底	○	
	◆水処理施設からの排水量の削減	△	
化学物質使用量の削減	◆化学物質使用量の削減及び適正管理に努める	○	
グリーン購入の推進	◆コピー用紙等のグリーン購入の推進	○	
社会貢献活動の推進	◆地域の清掃活動等に積極的に参加する	○	
	◆搬入路などの道路整備、草刈り等の実施をする	○	

(2) 次年度の取組内容(方向性)

本年度、未達成部分について、再度、取組をしていく。また、本格的な取組の方向性については、本年度末(H27. 8)以降、代表者の見直しを経て来年度の取組の方向性を決定します。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

現在まで、環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの訴訟についてもありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度のエコアクション21の成果を見てみると、ほぼ全項目が基準年より増加してしまった。主な要因として、二酸化炭素排出量では、冬期間の寒さが厳しく灯油の使用が増えたことと、重機オペレーターの新人を教育するため、重機をフルに活用した結果と思われる。

廃棄物排出量の産業廃棄物の増加は、排水処理施設の処理水量と関連がある。

これは、処分場の埋立て面積が今一番広く、浸出水の水量も多いため、水処理施設の稼働時間が増えたことで、汚泥の発生量が増えたためである。

目標達成が出来たのが、電力量の消費量と一般廃棄物の削減でした。

これは、基準年に設置した太陽光発電の成果がでてきたものと考えられる。

来年度は、目標達成出来なかった項目を分析し、少しでも成果が出るように対応を考えて従業員一人一人が、エコに対する意識を更に高めて達成できるように取り組んでいきたいと思う。

処理工程概略図

